

種1人の会員とした。ただのロータリークラブができた時はあのアールカボネはまだ10歳でしたので、ロータリークラブが増えていってもシカゴの町は良くなり悪くなっていききました。

しかし、初期のロータリアン達がみんな天使のようであったということではありません。仲間のロータリアンでさえも、その顧客になるのを尻込みするような会員もいたのです。そして倫理的商取引（現在の職業奉仕）の重要性を認識し、②職業奉仕が翌年の1905年に2番目にできたのです。

当時のシカゴの町は公衆便所がなかったので、女性は化粧品を買ってトイレを借り、又、男性は酒場に入って1杯酒を飲んでトイレに入っていました。そこでシカゴ市の利益を追求して公衆便所を作ったのです。

しかし、これとてクラブだけでは作れず、力のある人を借りて作ったのです。③社会奉仕（1904年）を行った訳です。

日本のロータリーの網領は1968年に職業奉仕について第2条に「業務を通じて社会に奉仕」としています。ロータリーの職業奉仕は、全て社会奉仕であり、ボランティアであります。

次に斎藤職業奉仕大委員長より話がありました。

①まず自分の職業を見習そう、全会員が自分の職業の発展のために、いかなる努力をしているか、又、どのような誇りをもっているかの事例を週報に投稿する。

全力投球しているか

新しい技術、情報を入れているか

従業員の接遇は良いか

新しい販路は良いか

↓

経済的に恵まれてくる

↓

社会に還元すれば良い

②職業奉仕月間（10月）の卓話の実施。

③職場の中から従業員を卓話に呼んで欲しい。1人5分でも3分でも良い。

④4つのテストの歌を歌う。

⑤俺は本年度こういう事をやる――アンケートに答えて欲しい。

ボランティアの浅田委員長よりは

職業奉仕の中のボランティアと限定しない方が良い。

国際奉仕、社会奉仕とも提携すれば良い。

施す方が勝手に施される方が迷惑ということもある。

無償性――ただでなくても良い。――原価販売でも良い。

公共性――強調しなくて良い。――活動が制限される。

らどんな楽しい伊勢崎の夜であったか想像つくかと思います。

翌日2日目は朝早く三条をバスで出発の当日参加の落合、南部、石川、佐藤（啓）、小林（充）、稲田、梨木、各委員長さんと合流して2日目のプログラムの分科会、全体会議にそれぞれの担当の会議に出席いたしました。この2日間の研修でR1のテーマ「SHOW・ROTARY・CARES」のくわしい説明にグレン・W・キレロス次期会長のメッセージと強調事項の解説と報告があり、久保田ガバナーノミニーからは地区の目標、抱負が発表されました。2日間を通して協議会のそれぞれのプログラムで色々参考になるお話を聞かせて頂き、感激してまいりました。中でもロータリー財団セミナーの田中作次コーディネーターの「人道上の意義」等のロータリーはギブ&ギブ、人の喜びは自分の喜びとしている田中さんの生き方、考え方は心に残りました。大変実のある勉強会になりました。新年度に多に生かしていきたいと思っております。又、ホストクラブの伊勢崎ロータリークラブから協議会参加者のホテルの各部屋に一人一人にフルーツと歓迎のカードが添えて届いてあの伊勢崎のロータリークラブの皆様の心使いと友情に感謝、感激し楽しい意義のある地区協議会であった事を御報告申し上げます。

地区協議会社会奉仕部会報告 吉川幹事

1 社会奉仕活動のこれからのロータリーのスタンスについて

大島パストガバナーより社会奉仕部会のカウンセラーとして貴重なお話をいただきました。まず、地区協議会の立場としては、各クラブが自分のクラブに合う活動を自主的に選択し、それぞれのクラブの完全自治のもとでやっていただきたいとのことでした。

また、新しいニーズの掘り起こしを行うべきであり、その活動後はロータリーがいつまでもたづさわっていることなく。地域や当事者に任せていって欲しいとのことでした。

2 次に人間尊重委員会についてのアドバイスとしては

対象としては幼児から障害者までいろいろな人たちが考えられるが、日本の人口の約15%をしめる60歳以上の高齢者の問題に注目すべきでないか。寝たきり老人等の問題もあるがそうした高齢者の90%以上が元気老人であり、その人たちの生き甲斐の問題がある。孤独に成りがちな老人のコミュニティづくりやその方々のキャリアを活かすという観点から、ロータリーの提唱するプロバスクラブは時代のニーズにあっている、積極的に取り組んで欲しいとのことでした。

実際にプロバスの活動をお手伝いしている新潟東クラブの発表がありました。

毎週水曜日に講師例会があり、その他、親睦ハイキング、旅行、草取り等を行っているとのことでした。プロバス会員は年会費12,000円を負担していますが、新潟東クラブより210,000円、他の新潟市内のクラブよりそれぞれ70,000円の助成金が出ているそうですし、活動にロータリー会員もかなりのお手伝いをしているのが実状です。将来的には、補助金にたよらずかつ

自主運営をしてもらいたいとの意向ですが、そこまでもっていくのはなかなか大変そうです。

3 環境問題は一人の為政者の大きな決断で救われるものではなく、私達地球上のひとりひとりの人間の選択により救われるとの共通認識が必要とのお話がありました。

その上で各地域の現状についての調査研究の中で、小さなことでもいいから有効な環境保護の提案を行っていかうとのことでした。

簡単ですが、以上で社会奉仕部会の報告にかえさせていただきます。

①地区分割について マンモス化したガシュミレーション

②地区予算について――地区資金→一般 1 人当たり 16,500円 500円増

特別会計 7,400円 500増

運営資金 200円

地区大会 同額

ガバナー事務所 100円

③ガバナー公式訪問

・懇親会 委員会費 300,000円増額

・土産 1 M補助金 200,000円減額

ガバナー運営 2.25円万増

地区組織 133名 20名の減 リストラ 毎年行う

1 \$ =126円←119

④地区大会

⑤出席について 低下傾向にある

クラブ奉仕 落合 益夫

今回のクラブ奉仕部会は、クラブ奉仕A、Bと別れず一体で行われ、また会員増強と合同で行われました。部会の内容を説明します。

1. 例会について少なくとも2つのロータリー情報プログラムを実施する。

2. 職業分類の数を5パーセント増やす。(職業分類)

3. インディアナポリスで開かれる1998年国際大会に少なくとも1名が参加する。

4. 新会員教育に関するプログラムを2回実施する。(ロータリー情報)

5. 会員の祖父母、両親、子供、孫たちを含む家族の行事を実施する。(親睦活動)

6. 地元ローターアクト・クラブ会員の奉仕活動に関する話を聞く。(青少年奉仕)

7. クラブ会員の配偶者の半数が参加するような独創的なプロジェクトを実施する。(親睦活動)

以上です。

会員増強委員長代理 南部会員

会員増強はロータリーの最大の資産といわれます。そこで増員について勉強会で学び感じたことを述べさせていただきます。某クラブはまず市民にロータリークラブは色々な奉仕活動を市民に浸透していただくためアンケート調査やいろんなイベントをアピールした中に効果的だった(元阪神タイガース佐野選手)をお招き少年野球教室を開催しましたところその年15名の新入会員がありました。

増員を募る努力も重要ですが現会員の退会を防止することも必要です。

それには新しいロータリーアンに会員であることによって得られる責務と奉仕の機会について教育しクラブ、プロジェクトとプログラムに積極的に参加するように仕向けることによって会員の退会を防止することが出来るのではないのでしょうか。

地区協議会(雑誌委員長)に出席して 石川副委員長

1. 梨本委員長の代理で参加してきました。雑誌委員会ということで参加者の顔ぶれは大変なものでした。リーダーは、新潟東ロータリークラブの近さんで会議は厳粛に進行しました。吉田ガバナーの紹介によるとロータリー友の編集長である別所さんが出席されるというのは珍しいとのことでありました。

2. ロータリーの綱領を推進するために雑誌があり、雑誌委員会はロータリーの宝庫である「ロータリーの友」を多くの会員に読んでもらうことが役目とのことでした。位置づけとしては、定 年に、出席義務と会費納入義務の二大義務に、追加として雑誌購入義務が記載されております。発刊は1951/1月からで、地区が二分割されたためその橋渡し媒体として発足しました。

3. 投稿から雑誌記載まで平均6ヶ月もかかるとかで、雑誌はなかなか読んでもらわれていないのが現実で近編集長さんの苦労話に胸を打たれました。

職業奉仕 佐藤啓策委員長

職業奉仕委員会では重田パストガバナー(医師)より基調講和がありました。大委員長は渋川ロータリークラブの斎藤弘一氏(医師) ボランティア委員長は高崎北クラブの浅田千秋(弁護士)氏でした。

重田さんの講和の内容は次の通りでした。

ロータリークラブが作られた目的は会員の事業上の利益の向上、会員の親睦を高めるでした。

ポールハリスがシカゴに住んだ頃のシカゴの町はとてもすきんだ町でした。だますのが当り前、だまされる方が悪い。ということでした。温かい交友を親しむため親しい友人を作る目的で小クラブを創設しました。①クラブ奉仕ができた。(1904年)しかし、同業者間の親睦の難しさから1業